

# 令和5年度 第1回郡山市中小企業及び小規模企業振興会議 会議録（要旨）

日時：2023（令和5）年10月19日（木）10:00～12:00

場所：郡山市役所西庁舎5階 5-1-1 会議室

## 【出席者】

委員：初澤敏生会長、大槻礼子副会長、河内恒樹委員、河内勉委員、小林文紀委員、佐藤保委員、鈴木英夫委員、福島勲委員（代理：三浦博之）、諸橋有紀子委員、柳沼広人委員、吉田悠吾委員、吉田由美子委員、鷲谷恭子委員  
（欠席：畠山良平委員、柳田美華委員）

事務局等：桜井産業観光部長、箭内産業観光部次長兼観光課長、齋藤産業雇用政策課長、古川産業創出課長、清野産業雇用政策課長補佐、小島産業雇用政策課産業政策係長、佐々木産業雇用政策課雇用政策係長、伊達産業雇用政策課産業政策係主任、高久産業雇用政策課産業政策係主査

## 【傍聴者】：なし

### 1 開会（司会：事務局）

### 2 市長挨拶

- ・皆様のこれまでの経験をご紹介いただき、お互いに協力し合っていきたい。
- ・郡山市は「マーケットメイキング」触媒役の役目を果たしていくので、皆様の活動において市が役に立てることがあればご相談いただきたい。
- ・少子高齢化を止めることは難しいため、才能のある子どもを小学校に早く入学させたり、大学を早く修了させたりし、早く社会で活躍してもらうことも必要ではないかと考えている。
- ・本市がスタートアップ企業を育てる都市になって、多くの企業に世に羽ばたいていただきたい。スタートアップ企業を育てるために、委員の皆様にも触媒役となっていていただき、スタートアップ企業と既存企業を繋いでほしい。
- ・皆様のこれまでのご経験を次の世代に伝授いただきたい。

### 3 委員紹介

- ・各委員の紹介、委員から一言、挨拶。
- ・市長、他の公務のため退席。
- ・事務局職員の紹介。
- ・事務局提案により「郡山市附属機関等の設置及び運営に関する指針」に基づき、

会議の公開の可否について協議し、会議を公開することに決定。

#### 4 会長・副会長選出

- ・振興会議規則第2条に基づいて選出する会長、副会長の選出方法について協議。
- ・委員より、「事務局案はどうか」との意見があり、各委員からも事務局案の提示に「異議なし」。
- ・事務局から事務局案として「会長 初澤委員、副会長 大槻委員」の提示があり、各委員「異議なし」とのことから、事務局案で決定。
- ・初澤会長、大槻副会長から挨拶。

#### 5 議事

会長が議長となり議事を進行。

##### (1)郡山市中小企業及び小規模企業振興会議について

事務局から資料1により、会議の位置づけ、スケジュールについて説明。

(会長)

- ・委員の皆様から御意見、御質問があればお願いしたい。

(質疑無し)

##### (2)郡山市の産業振興施策について ～中小企業等応援プロジェクト 2023～

事務局から資料2-1、2-2、2-3により、現在実施している産業振興施策について説明。

(会長)

- ・委員の皆様から御意見、御質問があればお願いしたい。

(委員)

- ・業務改善賃上げ応援事業だが、5万円から補助額を引き上げられないだろうか。電気料が高騰し昨年度より数百万円上乘せされている。照明の消し忘れ防止など、できる限りの経費削減対策を実施しているが、こういった対策では賄いきれないほど電気料が高騰し、中小企業は厳しい状況となっている。

(事務局)

- ・電気料の高騰対策については、重要課題として4月補正や6月補正で対応してきたところである。電気料の高騰に対する支援については、まずは国が行うべきと考えているが、限られた市の財源の中で5万円を支援させていただいた。貴重なご意見として、来年度に向けて検討していきたい。

(会長)

- ・電気代の高騰については、企業の節電等の努力レベルで対処できるレベルではない。国に対し積極的な支援を働きかけていてもらいたい。

(会長)

- ・今年度の事業の中で、継続や拡充となっているものについて、成果もあがっていると思うが、1つ2つ紹介願いたい。

(事務局)

- ・産業DX推進支援体制構築事業は今年で3年目になる事業であり、DXに先駆的に取り組む事業者を専門家が伴走支援し、その成果を横展開するというものであります。昨年度は10事業者、今年度は7事業者を採択したところであります。また、採択事業者が取り組んだDX事例の発表会などを通して、採択事業者の連携、異業種ネットワークの構築、販路拡大につながっている。

(事務局)

- ・オンライン活用等支援事業を継続して実施し、商工会議所や商工会と連携して事業者のキャッシュレス決裁やeコマースの導入などを支援している。商工会議所のアンケート結果によると年々導入率が上がってきており、一定の成果が表れているものと考えている。

(委員)

- ・新事業プロジェクトと再エネ導入を実証実験の事業でございますが、企業版ふるさと納税を活用した事業として興味があるのですが、詳細について教えていただきたい。

(事務局)

- ・企業版ふるさと納税2,000万円を活用して、2つの事業を実施するものである。1つ目の郡山新事業開発プロジェクトは、地域課題の解決に向けた新事業の創出を行うとともに、事業の構想立案に必要なスキルを習得するなど、人材の育成を図るものであり、現在10名を選任し事業構想大学院大学とタイアップして事業を進めている。2つ目の再エネ導入調査事業については、西部第一工業団地に営農型太陽光発電を設置し、再生可能エネルギーを作って団地内に供給するための実証実験を行っているも

のである。

(委員)

- ・Z世代対応採用支援等をスタートの中にネットで採用支援事業とあるが、中小企業の人手不足は深刻で人材を雇用するのに、数百万円の経費がかかる。それでも、なかなか集まらないのが現状である。補助上限額20万円とあるが、補助額を引き上げられないだろうか。

(事務局)

- ・人手不足という声は多く伺っているところであり、雇用対策には力を入れなければならないということで、補助額を上げることはできないが、4月補正予算で予算額を増額したところである。
- ・昨年11月に雇用政策課が産業政策課に統合され、産業雇用政策課として中小企業等支援と雇用支援を連携して行えるようになったので、来年度の予算編成で強化していきたい。

(委員)

- ・今年、中途採用を3名採用した。無料のサイトや県の説明会を活用させていただいた。経費をかけなくても無料の募集サイトもあるので、そういったものを活用するのも1つの手法ではないか。

(委員)

- ・先日、就職面接会に出席したが、就職先が決まっていない学生が30名ほど参加しており、説明を聞いていただいた。こういった機会も大事にしていきたい。

(委員)

- ・インバウンドの促進と輸出促進は表裏一体なので、連携して事業に取り組むのはいいことだと思うが、若干、事業が重複していることと分かりにくいことがある。
- ・インバウンドの観光誘客だが、海外からの観光誘客について、どの地域のこういったターゲットに向けて郡山の魅力を発信するのかを市民と事業者とともに戦略をたてて行うべきである。
- ・輸出促進であればターゲットにする国はインバウンドと共通の国だったり、違う国であったりする。ニーズを整理して取り組んでいただきたい。
- ・観光物産の振興は県でも行っている。県とは違うところをターゲットにするのもよいのではないか。

- ・アジア誘客モニターツアーだが、誘客用ガイドブックを作るのも有効であると思うが、個人旅行で来る方が多いので、SNSで季節ごとに頻繁に魅力を発信するのもよいのではないか。

(事務局)

- ・輸出促進において戦略ターゲットを絞った方がいいとのことだが、昨年度は福島県への観光客が最も多いタイをターゲットにした。今年度は福島空港からの定期便が予定されている台湾、交流50周年となるベトナムをターゲットにしている。今後、東南アジアをターゲットに考えているが、事業者の皆様からの情報ももらいながら進めていきたい。
- ・観光のプロモーションだが、モニターツアーでは海外のプロモーターと協力してSNSでの発信も行っている。

(3)中小企業振興に関する意見交換について

各委員から中小企業を取り巻く現況や課題、必要な施策等について発言。

(副会長)

- ・人手不足が深刻であると思っている。社会保険労務士等との合同相談会や独自の相談会を実施している。
- ・電子帳簿保存法の改正やインボイス制度が始まり、対応しきれていない中小企業の方も多く、税理士はそのフォローに追われている。
- ・デジタル化がますます進み、電子帳簿保存法やインボイス制度など大変革の年であり、税理士として経営者を支えるべきと考えている。

(委員)

- ・ワインの事業は厳しい。農業の6次化を目的としている事業なので、農家になるべく多く還元したいが、固定費もかかり、大きな収益を上げるには至っていない。
- ・ワイン事業に興味を持って、新しく勉強してみようと思ってくれる人材、特に若い地元の方が魅力を感じてもらえるような体制づくりを目指している。

(委員)

- ・優秀な人材が不足している。地元の中小企業になかなか就職してくれない。40代の若い経営者との話は大変ためになる。自力で起業してやっている方は目からうろこの話で勉強になる。
- ・市の職員と話をする場、機会が欲しい。触発される。力をお借りしたい。
- ・福島空港の海外便の実現を望む。市も後押ししてほしい。郡山市はインバウンドの恩恵受けていない。県も含めて発信が少ないのでは。魅力の発信、ローコスト

のSNSを利用するなどすれば良い。

(委員)

- ・事業承継が深刻な問題である
- ・中小企業に魅力がある事業が市はまだまだだと思う。中小企業を元気にしたいのであれば、もっと夢のある市にしていくべきである。
- ・富山県に行く機会があり感じたことは、大企業が誘致され雇用条件が大変良い。郡山市もこうなればと感じた。

(委員)

- ・中小企業においては人材の確保が課題だと思う。前の会社から今の会社になるとき、170人から3人に人数が縮小された。中途採用や海外からの獲得も難しい。
- ・郡山市からチャレンジ新製品認定事業の認定をもらい非常に助かった。郡山市の認証を受けた商品ですといってもらえてありがたい。引き続きやっていただきたい。

(委員)

- ・人手不足、価格高騰の問題が大きい。
- ・燃料、原材料の補助金などもあるが、コストを下げる施策が必要ではないか。
- ・ピーク時の電力を下げる手法とか専門家がいれば相談したい。
- ・価格転嫁ができていない。原価上がっているが売価は上げていない。いいものをより高く海外へ輸出することが大事ではないか。
- ・経営ビジョンをもたずに相談に来る経営者の方が多い。伴走支援するにも、まずは経営者がやる気を持ってほしいと思う。

(委員)

- ・物価、燃料費高騰の中、キャッシュフローの支援を継続している。今後も専門家の方、本日参加いただいている皆様に協力いただき支援をしていきたい。
- ・創業支援についても地域活性化における重要施策であり、スタートアップや女性・若者、移住創業者など幅広い層への支援を推進している。具体的には、創業時の資金ニーズに対応するとともに、創業計画の策定支援や創業セミナーへの出講などの活動に注力している。
- ・引き続き地域企業の活性化につながるよう頑張っていきたい。

(委員)

- ・人手不足が深刻である。
- ・郡山市の業務改善助成金のニーズが高い。
- ・中小企業等が必要な補助金をしっかり受け取れるよう、会として申請の無料相談

も行っているので、活用していただきたい。

- 働きやすい職場づくりでハラスメントの相談窓口を実施したり、研修に力を入れている。

(委員)

- 郡山産米を使用すると何か支援があれば良い。
- 市内小学校の工場見学を月に20校以上受け入れた。最近ではコロナで受け入れ不可能な工場が多く、市外からも引き受けた。その都度、入室用キャップ等の経費がかかるので、補助があると助かる。

(委員)

- 他委員からも話があったが、人手不足が課題である。ジェットロとしても、国際人材がなかなか集まらない。完璧でなければ、グーグル翻訳でできるが、海外展開輸出となると、スタッフを拡充しないといけない。先程、イノベーションの話もあったが、会津大学は外国人材もたくさんいるし、福島大学にも日本語が優れた方がたくさんいる。一方で彼らはほとんど福島県内では就職しない。地元縁がある方々と地元企業の出会いの場を作ればと考えている。行政の方々と協力しながら少しずつ外国人材の活用でのサポートをさせていただきたい。海外出張にも行けない状況があり、アメリカ往復するにも100万単位のお金がかかるし、モノを送るにも燃油サーチャージが高騰している。デジタルのツールを活用しつつも、お客様と直接お会いして現場を見ることが大変重要である。市、県とも海外展開に関わる補助金を出している。それを活用している企業も増えているのでありがたいと思っている。
- ジェットロに相談が多いのは東南アジア特にタイ、インドネシア、ベトナムに進出する、もしくは調達先をそちらに変えるという相談が非常に増えている。日本中世界中がそこを目指すので、競争が激しくなるのが大きな課題となる。

(委員)

- 商工会は小規模事業者の支援機関であり、家族だけで経営しているようないわゆる小規模企業が中心となっている。事業の持続が課題であり、市場環境の変化に対する取り組みや工夫が必要になってくるが、イノベーションができていないことがあげられる。商工会としては伴走支援が必要になってくるが、事業者の高齢化、後継者不足が問題になっている。また、新たにインボイス制度や電子帳簿保存法の事務手続きなど煩雑さが加わり、補助金など各種申請手続きも対応できない事業者も存在しており、商工会での代行支援の需要は増えている。その結果、経営改善に充てる時間が減少してしまっている。行政にお願いしたいのが事務手続きや制度をできるだけ簡素化し、高齢者や小規模事業者にとっても分かりやすく効率的なものにしてほしい。事業者を取りこぼさない配慮をお願いしたい。

- ・行政から商工会に対しての事業費等の支援もいただくと大変ありがたい。

(委員)

- ・郡山市の事業で高校生に将来のビジョンはと聞く機会があった。一度働くけれど子供ができたら自身の母親を見ているから専業主婦になる。父親が忙しく子供が育てられないと思うと言われた。キャリアを積む中で変わるかもしれないが、思い描くとその方向に向かうので、問題があると感じた。
- ・中小企業の調査で人材不足が叫ばれる中、採用形態の多様化がなかなか進まない。7割近くの対応策が正社員のためのものになっている。
- ・仕事と育児の両立を考える男性側の働き方改革が進んでいないと感じる。日本商工会議所の最新のアンケート調査でも、柔軟な働き方としてテレワークや時短勤務の推進は進んでいない。短時間勤務や働けない人たちへの支援を積極的に行うべきだと思う。
- ・インバウンドの話だが、盛岡ではわんこそば等の魅力があり、そばを分ける店員さんにまた会いたくなり、また訪れる。郡山もそうなってほしい。
- ・福島県では地域特例通訳案内士制度があり、郡山でも資格がある人は結構いるが活躍の場がない。行政には人を含めたソフト面の充実に向けた施策や海外に向けた発信もお願いしたい。

(会長)

- ・外国人労働力の確保ということでゼミの留学生が県内に就職した。これはロータリークラブからの助成金をいただき、日常的に企業との関わりがあったからであり、その関わりの部分が重要と考える。
- ・人手不足との意見が多いが、これは昭和の時代の労働力不足、いわゆる数の不足ではなく、質が不足している。企業が必要とする人材は多様化しており、人材をどうやって育成していくかが大事である。教育機関だけでは無理な話なので、教育機関、行政、企業が連携して取り組んでいかなければならない問題である。
- ・コロナ禍の3年間の総括が必要ではないか。こういった事業が有効でこういった事業が有効ではなかったなど、次に備えて検証する必要があると思われる。

(会長)

- ・時間も少なくなってきたが、この点についてもっと聞きたいという事があればお願いしたい。

(事務局)

- ・インバウンドの話になるが、モニターツアーの名所めぐりの中で、郡山市はイングリッシュフレンドリーではないという話をきく。観光だけの問題ではなく、まちづくり全体の話になるが、大きな課題だと認識している。



- ・海外からの観光誘客で、観光業の皆様へ受け入れ態勢をお願いしてもあまり積極的ではない。マインドが盛り上がらない。受け入れ態勢が整っているのか、まだまだ足元をみつめて、国内にターゲットを絞りたいのか伺いたい。

(委員)

- ・先日、沖縄県でバスケットボールの国際大会が開かれた。まだまだ国内において巨大マーケットがある。福島県という響きだけで敬遠もされるし、どうしても会津やいわきに知名度は負けてしまう。
- ・スポーツを通じた観光振興ではポテンシャルがあるのではと思う。

(委員)

- ・宇都宮は観光誘客が上手である。プロスポーツチームも多くあり、有名な選手もいる。郡山市も開成山地区の体育施設が改修され生まれ変わるのだから、スター選手を連れてくるなどして盛り上げていただきたい。
- ・宇都宮市では餃子が有名だが、郡山市もなにか1つのすごいことに力を入れてPRすべきではないか。すべて中途半端なので派手さがほしい。

(委員)

- ・4年前に天栄村で世界キャンプが行われた。それにあわせてヨーロッパ圏の人がみそ工場を見学したが、大盛況だった。インバウンドには大変興味ある。

(事務局)

- ・モニターツアーに工場見学を取り入れていきたい。

(委員)

- ・県において発酵食品ツアーを開催し、工場見学を受け入れたこともある。

(委員)

- ・発酵食品はよいイメージがある。発酵のまちとして売り出していてもいいのではないか。

(会長)

- ・発酵ブームは10年前からで出遅れている感もあるが、これからでも進めていただきたい。
- ・30年前は宇都宮市でも観光振興をどうすればいいのかわからなかったが、30年経つと全く変わる。郡山市も頑張りたい。

(委員)

- ・同友会で松山市に視察研修に行った。松山市のまちづくりの部署と意見交換を行ったが、まちづくりが先進的であった。成功した事例を実際に見て、事業を具現化していただきたい。行動することが大事である。

#### (4)その他

##### (事務局)

- ・本日いただいた貴重なご意見を具現化できるよう、来年度予算に反映することを検討していくとともに、市の範疇を超えるものについては国に強く要望していきたい。
- ・現在19歳の郡山市民は3,000人であり、今年生まれた子は2,000人を下回っている。郡山市でも人口減少・人手不足が進んでいることが分かると思う。また、2011年の震災の影響により、小学校入学直前で市外へ転出したと思われる現在18歳の女子及び生まれる直前に市外へ転出したと思われる現在11歳の女子が少ない。女子が少ないことが郡山市の課題であり、中小企業振興の上で一つのヒントになるのではないかと考えている。
- ・行政は立場上、郡山市はこういう分野で売っていきたいということができないため、若者等からの意見が出てくるのを待たざるを得ない。市からも若者等に仕掛けていきたいと考えている。
- ・次回会議では、来年度当初予算のご報告をさせていただきたい。

##### (事務局)

- ・本日はそれぞれの立場で生の声をお聞かせいただき感謝申し上げます。
- ・共通して意見があったのは「人手不足」。市外の大学へ進学した学生を引き戻すという発想では遅い。高校生、中学生、小学生のうちから郡山市にどのような企業があるのか知ってもらうことを仕掛けていきたい。これにより、進学して郡山市を離れても、郡山市の企業に就職するために戻ってくるという選択肢が生まれる。
- ・皆様からいただいたご意見については、行政という立場上フィルターを掛けざるを得ない部分もあるが、その中でも最大限の支援をしていきたい。

#### 6 閉会